

国土交通事務次官賞 (作文の部 中学生)

『公の力と私の力』

栃木市立東陽中学校1年 竹澤 郁絵

今年の夏、中国地方と近畿地方で豪雨災害が連続して発生した。死者は山口県で十七名、兵庫県や岡山県や徳島県でも多くの人々が亡くなり、行方不明の人もいた。その中でも、山口県防府市の集中豪雨は、土石流を発生させ特別擁護老人ホームに入所している多くの人たちの命を奪った事故だった。テレビでも、命からがら助かった疲労感と、一方で同じホームで生活していた友達を失った悲しみとで打ちひしがれた人たちの姿を見た。

確かに、気象は人間がコントロールできるものではないだろう。しかし、集中豪雨で多くの人々の命が奪われるようなことはなくすることはできないのだろうか。かつて栃木県的那須地方でも水害があったと言う。家屋や自動車や農耕車、飼っていた牛まで流されていく映像が映し出されたと聞き、私は驚いた。つまり、このような集中豪雨による災害は、今回が初めてというわけではないということになる。では、なぜ他県で起きた災害を教訓にして、自分の県で災害を防ぐようにしないのだろうか。やはり「大丈夫」という過信があったのだろうか。今回のニュースを見ながら私は疑問を感じた。

その後、新聞等を読んでいたら、山口県の防府市で特別擁護老人ホームが土石流の直撃を受けた時、防府市は国道で発生した土石流被害等への対応をしていたと知った。市内のあちらこちらで土石流の被害を受けていたため、救助が遅れたということになる。そうすると、市とか町などの救助を待つてはいられなくなる。自分たちで自分たちの身を守る努力をしなくてはならない。

私の家では、雨が降ると家の前が川のように水があふれ、出入りが大変な状態になってしまう。その状態を見ると、もっと大雨になったら大丈夫かと心配になる。家から一步も出られない状態になるかもしれない。近所に住む人たちのことまで心配になる。

いざという時のために、私は家族と話し合いをしている。もし大雨で浸水したり土石流が襲ってきたりしたら、父や母の指示に従って家族全員が落ち着いて一緒に行動すること。もし家族がばらばらになってしまった時は、状況を見て安全を確認してから決められた場所に集合すること。懐中電灯やラジオや非常食を常に用意しておくこと。まだ足りないこともあるかもしれないが、こうやって備えをしておくことは、個人としてやるべきことだと思う。

ただ、このような判断を個人で行うためにも、県や市町村は何らかの方法で、いち早く情報を提供してほしいと思う。山口県防府市の土石流被害も早めの連絡があれば、建物の損壊は防げなかったものの、利用している方が命を失うことはなかったかもしれない。特別擁護老人ホームの利用者であることを考えれば、避難に時間がより多くかかるのは当然である。情報が早く届いていれば対応も早めに行えたのかもしれない。加えて施設に勤めている人たちが、そういった災害に対する知識を持っていれば、情報が来るのを待たずに自主的に行動できたかもしれない。ただ素人だけに、判断が正しいか誤っているか分からないこともある。やはり公の情報は必要であるし、正しい判断ができるように、地域の人を対象にした講習会等を開くことも必要だと思う。

それから、自分たちの住んでいる地域は安全なのかということを知ることが必要だと思う。県や市町村でも危険な地域の整備をしてくれているし、各家庭で周辺に気をつけている。しかし、最近の「ゲリラ豪雨」と言われるくらいの猛烈な集中豪雨は、予想外の災害をもたらす可能性がある。そうすると、やはり専門家の人の意見や情報がほしい。こういったものをまとめて提供してくれるのは県や市町村の役目であると思うし、私たちにはそれを真剣に受け止め、積極的に活用していく責任がある。

公の機関である、県や市町村がやることと自治会とか各家庭といった私の立場でやること、この二つがうまく回っていかないと、土砂災害などを防ぐことも、自分たちの命を守ることもできないと思う。それぞれが自分の立場でやるべきことをしっかりとやって、今年の夏起きたような悲惨な被害はなくせるようにしたい。